



■ 展覧会概要

1982 年に開館した埼玉県立近代美術館は、西洋近代絵画や埼玉県ゆかりの美術家を核とした継続的な収集活動を行い、現在では国内外の近現代美術の作品を約 4200 点収蔵しています。この展覧会では、その中から学芸部スタッフが各々の視点で収蔵品を選び、一部に借用作品を交えて、調査研究（リサーチ）の成果をもとに展示します。7 つの独立したテーマを設け、コレクションを掘り下げていく、短編小説のアンソロジーのような展覧会です。

美術館の収蔵品は大切に保管され、過去から現在、未来へと受け継がれていきます。そして、作品自体は変わらずに存在していても、作品の解釈や捉え方はそれぞれの時代の価値観や調査研究の成果とともに変化していきます。この展覧会では、現在の学芸部スタッフの視座からコレクションに光をあて、その新たな側面を掘りおこす 7 つの試みを展開します。加えて、美術館の主要な仕事でありながら、通常はなかなかご覧いただけない「収蔵品の調査研究」や「教育普及活動」の舞台裏をご紹介します機会にもなるでしょう。

■ 見どころ

1. 学芸部スタッフによる調査研究の現在地を紹介

この展覧会では、学芸部スタッフがいま注目する収蔵品を選び、各々の調査研究の成果とともに紹介します。新発見資料や現在の時代状況を反映した作品の解釈を通じて、美術館の調査研究の現在地に立ち会っていただけることでしょう。

2. 垣間見られる美術館活動の「舞台裏」

美術館の主要な仕事である「収蔵品を調査研究」や「教育普及活動」が実際にどのように行われて

いるのかを、展示やギャラリートーク、レクチャー等の関連イベントによってご紹介します。通常はなかなかご覧いただけない美術館活動の「舞台裏」を垣間見ることができる絶好の機会です。

■ テーマ一覧

① キスリングとアンドレ・ドラン——来歴、画商、コレクターをめぐって

20 世紀前半、フランスを中心に制作を行ったキスリング（1891-1953）とアンドレ・ドラン（1880-1954）。当館では、彼らが 1920 年代に手がけた絵画を 1 点ずつ収蔵しています。なかでも、キスリングがパリの画商の妻を描いた《リタ・ヴァン・リアの肖像》は、ドランも同じ人物を描いている興味深い作品です。この作品を起点に、二人の画家と画商やコレクターとの交流を、作品の来歴（所蔵者の変遷）という視点を交えながらご紹介します。

② 田中保、アトリエへの招待——パリの新発見資料から

18 歳で渡米し、シアトルとパリで活躍した画家、田中保（やすし）（1886-1941）。2022 年の回顧展からしばらくして、パリから驚くべき知らせがありました。田中が暮らした旧アトリエで、書簡や写真などの資料がまとまって発見されたということです。2025 年 6 月に実施した現地調査からは、田中の知られざる生活や家族との関係が見えてきました。ここでは、新たな資料を読み解きながら、研究の現在地をお伝えします。

③ 山口敏男、岩崎勝平、末松正樹の水彩と素描——戦時美術の一断面

山口敏男（1902-1941）、岩崎勝平（1905-1964）、末松正樹（1908-1997）は、経歴や表現手法、制作の経緯は異なるものの、1930 年代から 40 年代にかけて、それぞれ水彩や鉛筆による作品を手がけています。穏やかな日常の情景、従軍画家として訪れた大陸の風景、半抽象的な群舞の像——水彩や素描であるからこそ制作され続けた、画家の眼と思考のプロセスを浮き彫りにする作品群を通して、戦時下前後のそれぞれの画家の足跡を掘りおこします。

④ 点を打つ——村上善男の美術と研究

美術家として、また美術史の研究者としても知られる村上善男（1933-2006）。村上は、東北での自らの生活実感やフィールドワークを通じて、独自の東北の作家論を展開し、「気象図」、「釘打ち」と呼ばれる絵画シリーズを制作しました。東北の作家たちの足取りを綿密に追いかけて、また自らの東北解釈をカンヴァスに落とし込む過程で、村上自身もまた、いくつもの足跡を残しました。この小企画は、村上の足跡——村上が東北に打ったいくつかの点をたどるものです。

⑤ 細田竹——日常を描く

当館の収蔵作家には、美術史上に名を残すことはなかったものの、埼玉で地道に活動が続けた作家も含まれています。細田竹（1905-1989）は、その一人に挙げられるでしょう。細田は、埼玉女子師範学校を卒業後、小学校教師として働くかわら、日常生活を営む女性の姿を描き続けました。細田が師事

したのは、日本画壇の大家・鏑木清方の高弟の一人、柿内青葉（1890-1982）です。彼女たちの描いた美人画を通して、女性像のあり方について考察します。

⑥ 女性たちの小宇宙——田中田鶴子、草間彌生、奥山民枝

戦前から画壇で活躍し、日本における女性抽象絵画の先駆的存在である田中田鶴子（1913-2015）。戦後から作家活動を開始し、自身の内面と向き合いながら制作を続ける草間彌生（1929-）。戦後に生まれ、自然に潜む生命力や官能性に着目した独自の画風を追究する奥山民枝（1946-）。世代の異なるこの3名の作家はいずれも、変化し続ける社会状況のなか、多様な経験にもとづいた唯一無二の画境を切り開いてきました。ここでは、資料等も交えて各作家の活動の歴史をたどりながら、それぞれが確立した独自の世界——小宇宙——へのご案内します。

⑦ MOMASのとびらを開いてみたら

当館が長年実施してきた「MOMASのとびら」など教育普及活動プログラムの軌跡を振り返り、これからの展開を考える展示を行います。当館のコレクションや企画展に寄り添うように考案されてきたプログラムを作品やワークシートとともに紹介し、教育普及活動の意義について改めて考える場を展示室に作り出します。近代、現代そして未来へと価値を継いでいく教育普及活動の変遷と現在地をみつめ、「MOMASのとびら」の向こう側と一緒に想像してみませんか。

■ 開催情報

展覧会名	コレクションの舞台裏——光をあてる、掘りおこす。収蔵品をめぐる7つの試み 英題：Behind the Scenes of MOMAS Collection
会 期	2026 年 2 月 7 日（土）－5 月 10 日（日） ※一部展示替えあり 前期：3 月 29 日まで 後期：3 月 31 日から
休 館 日	月曜日（2 月 23 日、5 月 4 日は開館）
開館時間	10 時～17 時 30 分（展示室への入場は 17 時まで）
観 覧 料	一般 1000 円（800 円） 大高生 800 円（640 円） ・（ ）内は 20 名以上の団体料金 ・中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い 1 名を含む）は無料です。 ・企画展観覧券（ぐるっとパスを除く）をお持ちの方は、あわせて MOMAS コレクション（1 階展示室）もご覧いただけます。
会 場	埼玉県立近代美術館 2 階展示室 B、C
主 催	埼玉県立近代美術館
助 成	遠山記念館 芸術・学術研究等助成金
協 力	JR 東日本大宮支社、FM NACK5

■ 会場案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 TEL: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

- ・ J R 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。J R 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分。
- ・ 当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。団体バスは事前にご相談ください。
- ・ お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。
- ・ 状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

■ 関連イベント

○講演会

講師 | 山本由梨（近代日本美術史研究者）

日時 | 3 月 7 日（土）15:00～16:30（開場は 14:30）

場所 | 2 階講堂 定員 | 80 人（申込不要、当日先着順） 参加料 | 無料

内容 | 女性画家の表現手段として、美人画がどのような役割を果たしたのか、明治期後半から昭和初期の作品を取り上げて、お話しいただきます。

○アーティスト・トーク

講師 | 奥山民枝（本展出品作家）／聞き手：当館学芸員

日時 | 3 月 15 日（日）15:00～16:00（開場は 14:30）

場所 | 2 階講堂 定員 | 80 人（申込不要、当日先着順） 参加料 | 無料

○ミュージアム・レクチャー「公共財／共有財としての近現代美術作品の活用をめぐる」

講師 | 相澤邦彦（ヤマト運輸 [美術] スペシャルアドバイザー／コンサヴァター）

日時 | 3 月 22 日（日）15:00～16:30（開場は 14:30）

場所 | 2 階講堂 定員 | 80 人（申込不要、当日先着順） 参加料 | 無料

内容 | 美術館における収蔵品の活用について、作品の輸送、展示公開、調査研究、また活用のための様々な保存活動など、幅広い観点からお話しいただきます。

○担当学芸員によるレクチャー「田中保研究の現在地」

講師 | 佐伯綾希（当館学芸員）

日時 | 4 月 18 日（土）15:00～16:30（開場は 14:30）

場所 | 2 階講堂 定員 | 80 人（申込不要、当日先着順） 参加料 | 無料

その他、学芸部担当スタッフのリレー形式によるギャラリートーク等を開催予定です。詳細は、当館ウェブサイトでお知らせします。

■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内します（予約制）。

お問い合わせ、ご予約は教育・広報担当（TEL: 048-824-0110）まで。

■ 同時開催

アーティスト・プロジェクト #2.09 江頭誠 夢見る薔薇～Dreaming Rose～（2 階展示室 D）

Ⅰ 2026 年 2 月 7 日（土）－5 月 10 日（日）

MOMAS コレクション（1 階展示室）

Ⅰ 2025 年 12 月 6 日（土）－2026 年 3 月 1 日（日）

「セレクションー大正から昭和へ」「MOMAS のゆるい絵・素朴な絵」

Ⅰ 2026 年 3 月 7 日（土）－5 月 31 日（日）

「セレクション」「さいきんのたまもの」「頭／体」

■ 図録

展覧会図録『コレクションの舞台裏』（238×165mm、96 頁、価格未定）を当館ミュージアム・ショップで販売いたします。

■ プレスカンファレンス

2026 年 2 月 7 日（土）17 時 30 分～（受付開始：17 時）

埼玉県立近代美術館 2 階展示室

上記の日程で、報道関係者を対象としたプレスカンファレンスを開催いたします。

参加ご希望の方は、p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・菊地）までメールでお申し込みください。その際、貴社名、お名前、参加人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

Ⅰ お問い合わせ

展覧会担当：吉岡、佐伯 / 広報・画像に関するお問い合わせ：菊地

TEL: 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通） FAX: 048-824-0118（学芸直通）

p2401115@pref.saitama.lg.jp（企画展担当）

■ 広報用画像

画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。
ご請求は p2401115@pref.saitama.lg.jp（担当・菊地）まで、メールでお願いいたします。

- ・ 画像を掲載する場合は、作品のキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・ 作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。
- ・ 掲載作品以外の画像をご希望の場合はお問い合わせください。

画像キャプション

- ① キスリング《リタ・ヴァン・リアの肖像》1927 年 | 埼玉県立近代美術館蔵
- ② アンドレ・ドラン《浴女》1925 年 | 埼玉県立近代美術館蔵
- ③ 田中保《裸婦》1923 年 | 国立西洋美術館蔵、松方コレクション
- ④ 田中保の写真 3 点（Courtesy of Hélène and Claude Garache Endowment Fund.）および調査研究に用いたもの | 撮影：佐藤克秋
- ⑤ 岩崎勝平《従軍スケッチ 失題》1939 年頃 | 田中屋コレクション蔵 | 後期展示
- ⑥ 末松正樹《作品名不詳》1945 年 3 月 8 日 | 埼玉県立近代美術館蔵
- ⑦ 山口敏男の水彩およびアルバム | 個人蔵 | 撮影：佐藤克秋
- ⑧ 村上善男《鰯ヶ沢湾上独双六》1986 年 | 埼玉県立近代美術館蔵
- ⑨ 田中田鶴子《日本》制作年不詳 | 三鷹市美術ギャラリー蔵
- ⑩ 奥山民枝《山遊》1991 年 | 埼玉県立近代美術館蔵
- ⑪ 上田薫《ジェリーにスプーン C》1990 年 | 埼玉県立近代美術館蔵

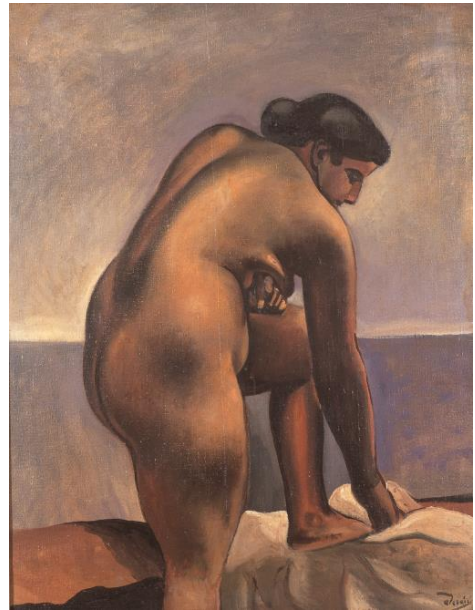
p.1 掲載画像

- ㊦ 村上善男《鰯ヶ沢湾上独双六》（1986 年、埼玉県立近代美術館蔵）のポジフィルム | 撮影：佐藤克秋
- ㊧ メジャーを持つ手とメモ帳 | 撮影：佐藤克秋

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪

